

第37回 島根緑内障研究会

(日眼専門医制度生涯教育認定事業 No.59217)

プログラム

日時：2020年11月1日(日)
13時00分～16時15分

場所：ニューウェルシティ出雲
島根県出雲市塩冶有原町 2-15-1 (〒693-0023)
TEL 0853 (23) 7388

会費：学会費 3,000円
(コメディカル等・学生 無料)

- 一般講演時間は20分(講演10分, 討論10分)です。
- 発表はデジタルプレゼンテーションです。PC・USBメモリ等をご持参ください。
- 本学会は日眼専門医制度生涯教育事業の認定を受けております。登録カードをご持参ください。
- 当日, 200字～400字程度の抄録をご提出ください。

島根緑内障研究会
島根県眼科医会
島根大学医学部眼科学教室
興和株式会社

—開会のあいさつ（野田 佐知子 副会長）—

一 般 講 演（13：05-15：05）

座長 杉原 一暢 先生

1. 顕微鏡内蔵型 OCT を用いたマイクロフックトラベクトミー術中の隅角観察

○石田晃子, 杉原一暢, 白神智貴, 筒井愛佳, 真鍋 薫, 谷戸正樹（島根大学）

2. 原発開放隅角緑内障におけるシュレム氏管の組織学的検討

○筒井愛佳（島根大学）, 濱中輝彦（日本赤十字社医療センター）,
海津幸子（島根大学）, 小林加苗（日本赤十字社医療センター）,
石田誠夫（上越石田眼科）, 熊坂利夫（日本赤十字社医療センター病理部）,
谷戸正樹（島根大学）

3. 自動開放隅角判定アルゴリズムの作成

○松尾将人, 志賀敦仁（島根大学）, 朝岡 亮（聖隷浜松病院眼科）,
中原健一（株式会社 Queue）, 谷戸正樹（島根大学）

座長 佐野 一矢 先生

4. マイクロフックトラベクトミー前後の房水流出率比較

○谷戸正樹, 筒井愛佳, 真鍋 薫, 持地美帆子（島根大学）

5. アーム緑内障挿入術後にプレート周囲濾過胞再建を施行した 1 例

○真鍋 薫, 池田欣史, 藤原悦子, 松岡陽太郎（松江赤十字病院・眼科）

6. 複数回チューブシャント手術を施行した症例の検討

○市岡 昇, 高井保幸, 真鍋 薫, 筒井愛佳（島根大学）,
松岡陽太郎（松江赤十字病院眼科）, 谷戸正樹（島根大学）

—休憩（10 分）—

座長 谷戸 正樹 教授

MIGS の効果と限界

庄司 信行 先生

(北里大学医学部眼科学・主任教授)

低侵襲緑内障手術(MIGS)は、内眼手術としての操作に共通点が多いためか、海外では白内障術者やその関係の学会で取り上げられることが多く、これまでの緑内障手術には縁の遠かった術者に受け入れられやすかったようである。逆に、緑内障の分野では、眼圧下降効果はあまり期待できないのではないかと、緑内障手術として取り入れることにためらいを感じる術者も多かったようである。つまり、眼圧下降を目的とした緑内障手術であるにも関わらず、緑内障治療へのスタンスの違いによって、これに求めるものが異なる術式とも言える。我々の施設では2010年12月からトラベクトームを導入し、これまで500眼を超える流出路再建術を行ってきた。その結果、15,6mmHg程度まで下降できる、安全性の高い手術であることがわかった。しかし、薬物スコアは1～2程度減らせるものの、内服まで必要な症例が多かったために、点眼継続の負担は減らせていない。MIGSは、理想的には点眼1,2剤の症例で行うものであり、そうすれば、点眼の負担を大きく軽減でき、手術の効果を実感できるのではないだろうか。とは言え、本来ならトラベクレクトミーが必要と思われても、手術侵襲の少なさを優先してMIGSを選択することも多い。これまでのトラベクトーム手術の結果から考えた同手術の効果と限界についてお話をし、今後のMIGSに対するスタンスについて私の考えを述べさせていただきたいと考えている。



MEMO.....